



冬の災害に 備えておきましょう!!

災害はいつ起こるか分かりません

冬期間の停電発生に備え、寒さ対策を万全にしましょう。

問い合わせ 危機対策課（市庁舎5階、☎65・4103）

冬の災害対策

平成30年9月に発生した胆振地方を震源とする地震では、北海道全域が停電し、私たちの生活は大きな影響を受けました。もし、この地震が冬に発生していたら、どのような被害があったでしょう。他の季節とは違う防災対策について考え、家庭でも冬の災害に対する備えを始めましょう。

寒さから身を守る

停電が発生した場合、電気ストーブだけではなく、ガスや灯油を熱源とする暖房器具であっても、コンセントからの電気により着火・送風するタイプは使用できません。そのため、停電時は、家庭で使用されている暖房器具の9割以上が使用不能になると言われています。

冬の災害に備えて準備する暖房器具は、カセットガスストーブやポータブル灯油ストーブなど、コンセントからの電気を使用しないタイプを選びましょう。

さらに、ジャンパーや帽子などの防寒具や使い捨てカイロ、防寒

アルミシートなど、冬の寒さをしのげる準備をしましょう。暖房器具と併用すると効果的です。

準備しておきたい非常持ち出し品リスト

季節を問わないもの

- 食料、飲料水
- 衣類、毛布、寝袋
- ヘルメット（防災頭巾）
- 携帯用ラジオ
- 携帯電話用バッテリー
- 救急箱・マスク
- 簡易トイレ
- 常備薬・持病薬
- 懐中電灯
- 現金・貴重品 など



冬季に必要となるもの

- 防寒具
- 長ぐつ
- ポータブルストーブ
- 使い捨てカイロ
- 防寒アルミシート など

「通電火災」の危険

災害による停電が復旧すると、暖房機器に接触した可燃物への引火や、損傷している配線からの発火など、「通電火災」が発生する恐れがあります。

停電中は、電気機器のスイッチを切って電源プラグをコンセントから抜き、自宅を離れる際は、ブレーカーも落としましょう。

また、通電後は、電化製品や配線の損傷などの安全性を十分に確認した上で使用を再開するほか、室内から煙の発生などの異常を発見した場合は、直ちにブレーカーを落とし、119番（消防）通報をしてください。

通電火災の例

・ショートした配線から発火



・電気ストーブに落下した物へ引火



市ホームページID.1002264

実際に体験して備えよう

防災グッズ展

- ・家庭で備える防災用品や市の防災資機材の展示
- ・市内の小中学校で実施した親子防災講座の紹介



日時 1月16日(月)～20日(金)
9時～17時（初日は12時から、最終日は15時まで）
場所 市民ホール（市庁舎1階）

冬季防災訓練

- ・冬季に大きな地震が発生し、市内各所で家屋などへの被害がある災害を想定
- ・救助救出や停電対策、避難所運営の訓練などを実施



日時 2月4日(土) 13時30分～17時30分
場所 豊成小学校（清流西1）
定員 100人
申込 1月20日(金)までに、電話で危機対策課へ

防災動画を見て備えよう

見て備える「防災動画」

防災啓発動画を市のホームページで公開しています。ご家族や地域で防災対策の参考にしてください。



帯広市防災動画

検索

インターネットで学ぼう「おびひろe-防災」

防災に関する資料や動画を紹介しています。いつでも・どこでも防災について学ぶことができます。



おびひろ e-防災

検索

「後発地震注意情報」の運用開始

大きな地震の後の巨大地震

大きな地震が発生した後に、さらに大きな地震（後発地震）が発生することがあり、平成23年の東日本大震災もその一つです。過去100年の間、世界でM7.0以上の地震は1477事例あり、うち7日以内にM8.0以上の地震が17事例発生しています。

そのため、12月16日より、国において「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の運用を開始しました。今後は、北海道根室沖から東北地方三陸沖エリアで、M7.0以上の地震が発生した場合、「後発地震注意情報」が発表されます。



▲内閣府ホームページ

1週間程度は警戒レベルを高めましょう

後発地震は必ず発生するとは限りませんが、注意情報発表から1週間程度は、地震への備えを再確認し、巨大地震への警戒レベルを高めましょう。

- ・家具の固定や食器類などの落下対策を確認
- ・落下物などの心配がない場所で就寝
- ・避難場所や非常用持ち出し品などの確認 など